２０１８年6月３日

２０１７年度事業報告書

特定非営利活動法人障害者の職場参加をすすめる会
代表理事　山﨑　泰子
電話番号 048-964-1819

１．　事業実施の成果

世一緒を拠点とした本部事業と市から受託した就労支援事業という両輪のうち後者がなくなって三年目となり、世一緒を地域に向かって開くとともに地域でのより密接な連携、そして全国的な連携も探りつつ、就労移行支援事業という新たな輪を準備した１年だった。

２．事業の実施に関する事項（2017 年４月１日～2018 年３月３１日）

１）特定非営利活動に係る事業

（１）職場参加の基盤形成のための支援事業

越谷花火大会夜店、越谷市民まつり、産業フェスタ出店等は、例年通り行った。水上公園花壇整備のほか、耳鼻科、ニューオタニの除草作業、市民ネットのポスティング等、グループワークを行った。就労支援センター受託時のような新規の参加者はまれで、比較的若いスタッフはすぐに就労 A 型等の利用に移って行ったり、介助を要するスタッフは施設入所に至った。結果として、世一緒の常連は高齢障害者等となり、当初企画した「ともまちプロジェクト」（アポを取っての職場・社会資源訪問調査）もあまりできなかった。代わりに、毎週水曜、地域の人々にゲストトーカーとして来ていただく「すいごごカフェ」（第 3 水曜は仕事おこし懇談会と連携したランチカフェどっこいしょ）は好評で、52 回開催することができ、広い人脈を育むことができた。

「たそがれ世一緒」、「世一緒 de キネマ」、「どよう世一緒」はそれぞれに、平日昼間のスタッフとは異なる、企業や就労系施設またはひきこもっている人などが常連となり、継続して行われた。生活クラブ生協越谷ブロック地域協議会やケアシステムわら細工、仕事おこし懇談会と連携して開催した「うんとこしょ―共に活きる街の介護人養成講座」（お出かけ企画と座学を隔月で開催）も含めて、かって一塊になっていた当時の世一緒とはちがって、企画ごとに異なる顔ぶれが参加し、地域の他の人々と出会う多面的な活動をおこなった。日常的に世一緒にいる人数は減ったが、関わる人々の総数は増えてきている。

（２）福祉施設等の職場参加に関する協力関係の促進を図る事業

水上公園花壇整備作業は、福祉施設等の職場参加に関する協力関係の促進を図る事業として、12 年目となった。元々は越谷市障害者就労支援センターを受託していた当時、センターを通してこの作業を共同で行わないかと呼びかけ、受託終了後も越谷市内のほぼ全施設に毎月 FAX で情報提供し、参加を呼びかけてきた。2017 年１月に厚労省が自治体に通知し４月から実施した就労系等の施設への方針見直し、そして 2018 年４月からの報酬改

定等により、就労系施設の参加が急減した。世一緒スタッフの他は重度の障害者も多い生活介護施設が中心になっているが、年々技術的には向上し、発注元の公園緑地協会にも大いに評価をいただいている。

この事業と希望の里除草を市就労支援センターを通して福祉施設等に周知した時の施設間連携が基礎となって成立した越谷市障がい者共同受注ネットワークは、二年目になったが、市の優先調達がほとんどできていず、民間からの発注を紹介するにとどまっている。市の発注が入札形式であるために、作業の工程等について調整ができないため。ただ、現在特命随意契約にできるよう関係各課で調整を行っており、今後可能性が拡がるだろう。

（3）障害者の就労・生活支援のための資料収集と情報提供に関する事業

（1）でふれた「すいごごカフェ」、「うんとこしょ――共に活きる街の介護人養成講座」で、年間を通して、身近な地域の中で障害者の就労・生活支援のための資料収集と情報提供を行った。

また、職業リハビリテーション研究・実践発表会（11 月 10 日）に、今年度も山下理事、日吉事務局員が出席し分科会報告を行った。「協同労働の協同組合」法制定推進フォーラム（11 月 11 日）で、尾谷理事が報告を行った。共同連関東ブロック結成会議（12 月 17 日）には 3 名が、共同連マラソントーク（2 月 10 日）には 4 名が参加し、資料収集と情報提供を行った。

就労移行支援事業をはじめ多角的な事業を行っており、共同連に参加しているわくわくかんに、11 月 16 日、16 名で見学交流デイツアーを行った。

埼玉県定期刊行物協会に加盟し、職場参加ニュースを障害低料第三種郵便物として発行することが可能となり、NO５５～NO５８を格安で郵送することができた。グループワークにエントリーしたことのある障害者等向けの世一緒 NOW は 4 号～8 号を発行した。

（4）啓蒙と地域の輪を拡げるための勉強会等を開催する事業

講師を招き大規模に行う講演会として、６月２５日に総会記念シンポジウム「共に活きる介護づくりから共に働く街づくり、１２月１７日に共に働く街を創るつどい「いっしょにはたらいて　まちにそよかぜ」を開催した。小規模の勉強会は、（1）に述べた「すいごごカフェ」及び「うんとこしょ座学」を行った。

（5）国、自治体に対して施策を提言する事業

2017 年度共に働く街を目指す提言を、2 月 8 日に越谷市・高橋市長、2 月 16 日に春日部市・石川市長、3 月 20 日に草加市・田中市長を訪問し、それぞれ提言を手渡し説明を行った後意見交換した。当会のほか、越谷市は辻市議、春日部市は古澤市議、パタパタ、草加市は関市議とめだか工房がそれぞれ参加した。

8 月 31 日、埼玉障害者市民ネットワークの総合県交渉に参加し、世一緒の活動を紹介し、意見を述べた

（6）協力事業所の開拓に関する事業

委託事業が終了して3年目を迎え、世一緒スタッフの多くが就労A、Bや企業に出て行った結果、協力事業所の開拓も限定的とならざるを得なかった。その中で、サポート校卒業後週1回世一緒に来るようになった川口の若者Kさんは、ハローワークに毎週定日・定時に通い続け、家族の支援を得て高齢者施設でのトライアル雇用を実現し、契約満了で退職した後、新たな施設でのトライアル雇用にこぎつけた。

兄弟二人で一人分の働き方をする形で、市場の野菜卸で働いてきたS兄弟は、仕事の連絡が当日の朝だったため、家族全員で電話を待ち、連絡がないと気落ちして、世一緒にも出て来れなかったが、世一緒サポーターが職場訪問した結果、前日の連絡に変わり、仕事も安定してもらえるようになった。

就労移行支援事業所の開所を前にして、これまで関わりのあった事業所を訪問し、職場実習等の可能性を打診し始めた。

（7）障害福祉サービス就労移行支援事業

市との事前協議を2017年8月21日に行い、9月より準備室を設置した。それに先立ち物件探しを始めていたが、11月20日、せんげん台の物件が1～2階を事業所とすることで市の了解を得た。

空き店舗対策助成金を利用して改装を行い、2018年4月1日より事業開始の指定が下りた。

2月6日、2月15日、3月1日の3回、面談、説明会を行った。

3月26日～3月30日、プレオープンとして越谷の農家さんから仕入れた無農薬野菜販売を行い、昼食を摂る暇も無いほどの盛況だった。